

## 退官にあたって

鈴木秀次(物理)

理学部に来てからすでに21年になりました。当初は「原子力関係講座」の一つであった放射線物性学の担当でしたので、東大の原子力教育研究体制の構想と実態の食違いに悩まされました。ときどき「原子力講座は預かり講座」という言葉が教授会でも出て、理学部の正式なメンバーとして認められているのかどうか疑わしくなったり、原子力関係講座の建物は弥生地区キャンパスに建つはずであるということで、仮住いの実験室の引越しが続いたりしました。しかし、そのうち工学部附属の原子力教育施設管理部が全学共同利用の原子力研究総合センターに変わり、さらにしばらくして原子力関連講座、協力講座の名称がなくなり、原

子力講座の建物の要求が取り止めになりました。

普通の学部所属の講座として扱われるようになると、理学部は大変居心地の良い所です。物理教室の数多くの先輩、同僚の刺激を受けながら若い大学院生達と固体ヘリウムの研究を進めることができたのは、私にとって最も嬉しかったことの一つです。

私の停年退官も目前になりました。この21年間をふり返ってみますと、理学部のいろいろな方から大変お世話になったことが思い出され、それに比して理学部に対して私自身はほとんどなすことのなかったことを心苦しく思っております。

最後に理学部の皆様の益々の御発展を祈ります。